

第13号をもって平成27年度のニュースレターは最終となります。そこで、今号では、今年度のふらっと業務を振り返ったうえで、来年度へ向けた事業の取り組みや抱負について掲載します。

平成27年度を振り返ってみて

平成27年度のニュースレター作成編集を担当し、“利用者の生の声”や“ピアサポーターの声”、“地活と相談支援事業所の関係”などのテーマを設定し掲載してきました。それにあたって、改めて利用者へのインタビューや、業務の振り返りなどを行う良い機会とすることができ、そこで気づいたこととしては、“利用者との普段の関わりをもっと重視すべきである”という反省点や、職員個々人を感じる課題とは別の、事業所単位で抱える課題に直面することが出来ました。

・ピアサポーターという存在に焦点を当てるのであれば、携わり密に関わることでできるマンパワーの不足による活動機会の限定化。

・普段から行っている地活の相談支援で言えば、対応できる職員の偏りが顕著。

・地活と相談支援事業所の関係で言えば、業務のバランスを図ることがとても難しい。

などの課題に直面しました。

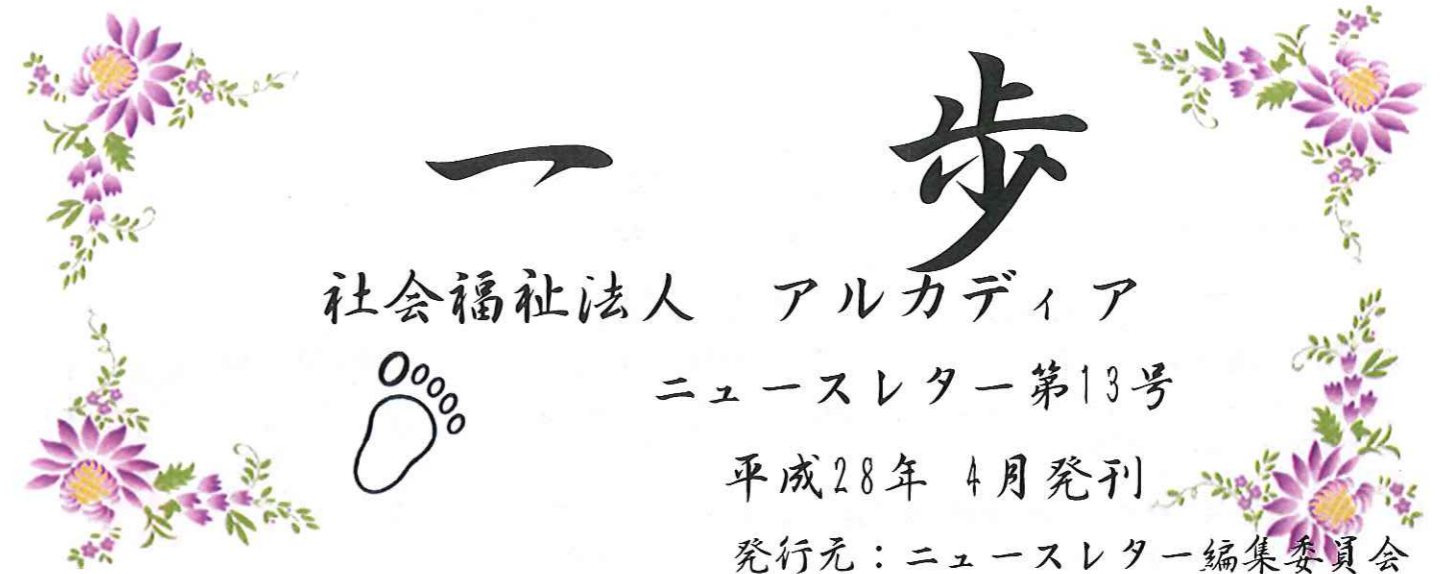
平成28年度へ向けて

平成27年度を振り返ってみて挙げた課題は多くありました。しかし、先ず課題に直面できたことが課題解決・改善への第一歩ととらえることもできます。そこで、本欄では来年度に向けて、発見することの出来た課題に対する対策として考えられることを掲載します。

先ず、上記の課題に共通して言えることは、“マンパワーの不足”ではないかと考えます。各事業所で「うちはマンパワー不足だから」といった声をよく耳にすることがあります。それは、一概に職員の増員によって解決できることではないと考えられます。そもそも、増員を行うこと自体困難となっていることが現状です。

そのため、今現在実動している職員間で事業所の抱えている課題を共有し、そのうえで今何が必要となっているのかを検討する場(内部研修)を増やし、マンパワーの不足ではなくマンパワーの強化という視点を据えることが必要なのではないかと考えます。更に、内部研修だけでなく、外部に出向くことで新鮮な風を内に巻き込む(外部研修)機会も積極的に増やすことが求められるのではないかと考えます。そして、ピアサポーターの活動にあたってのマンパワー不足という点においても、法人内部でピアサポーターへの理解の増進を図ることを来年度よりの目標としたいと思います。ふらっとをはじめ、法人内各部署でピアサポーターへの理解・協力体制を整備することが、今後のピアサポーターの動きの幅を広げ、それを維持することに繋がるのではないかと考えます。

長くなってしまいましたが、ふらっとにおいて、平成28年度の抱負としましては、内部外部問わず、研修検討の機会を増やすこと。それによる“マンパワーの強化”を大きな目的の一つとし前年度から学んだ課題の改善に尽力したいと思います。



社会福祉法人 アルカディア



ニュースレター第13号

平成28年 4月発行

発行元：ニュースレター編集委員会

～ 前へ ～

障がいもちながら暮らす人たちの《生の声》をきこう

～シンポジウム開催案内～

『障害者自立支援法』(現、総合支援法)が施行されてから既に10年が経ちます。

この間、『虐待防止法』、『障害者権利条約批准』、『障害者差別解消法』など障がい者が社会で当たり前暮らす共生社会実現に向けた動きが活発になってきています。

ただ、法律ができて、一般市民に周知されなければ法律の意味は半減します。また、三障がいと同じスタートラインに立ったとしても、未だ、相互の垣根はなくなるとはいえない現状があります。

このような問題を少しでもよい方向に向かっていくには、当事者同士がお互いを理解し合い、共通の課題を見つけ、解決していくことからしか始まらないと思います。

そんな意味もこめてこの度、当事者同士の「シンポジウム」を開催することになりました。市民の多くが障がい者の抱える様々な「生活のしづらさ」を理解し、受け止めるのは、そう簡単ではありません。ただ、障がい者が自分たちの言葉で自分たちの生活のことを語りかけていくことによって一歩ずつ健常者と障がい者の溝はなくなる将来への道筋が開かれていくのです。

多くの人たちが『シンポジウム』に参加されるようこの紙面を借りてお願いいたします。

(ニュースレター編集委員会)

社会福祉法人 アルカディア ニュースレター委員会

本部(ふらっと)

群馬県太田市鶴生田町733-123

TEL: 0270(20)2509

FAX: 0276(20)2510

平成27年度の事業計画をもとに振り返りを行いました

平成27年度に目指したものと、その振り返り

- 利用者本位を理念とし、利用者のニーズに沿った個別支援計画を立案。
 - ・様々な生活のしづらさを踏まえた上での個別対応の必要性を痛感し、アセスメントの重要性を再確認できた。
 - ・本人のニーズをもとに一緒に支援させて頂くことにより、新たな社会資源へと結びつけることが出来た。本年度の退所者のうち、70%の方が地域での障がい福祉サービスを利用し、地域にて生活されている。



○職員の質的向上

- ・スタッフの質的向上の為、4月から毎月研修を実施。毎月の実施という目標においては達成しているものの、質的向上の面においてはまだまだ途上である。多様な研修を実施すると共に、研修後の検証や振り返りを継続して実施するなど、一層の努力が必要となる。



平成28年度に向けた抱負

援護寮はばたきとして

- ・より多くの方に利用して頂けるよう、はばたきのアピールポイントを明確化し伝えていく。特に利用を検討して頂ける方へのアピールや、わかりやすい説明などの配慮が必要である。
- ・スタッフの質的向上のための研修を継続して実施する。
- ・近年就労へのニーズが高まっているため、就労へと繋がる生活訓練の充実と新たな社会資源の創出、拡大を目指す。



社会福祉法人アルカディアとして

- ・ピアのシンポジウムの円滑な遂行と、それに伴うピア活動の推進。
- ・3障がい合同開催により、相互理解を深める。
- ・障がい者に対する地域の理解と、差別の解消に努める。



空き情報

入居：皆様のおかげで多くのご連絡を頂いております。体験については待機者多数の為、お時間を頂く事になってしまいますが、ご相談・お問い合わせは随時お受けしております。

通所：**空きが4名分あります。**
通所であればスムーズに体験、通所開始が可能です。

問合せ先

群馬県精神障害者援護寮「はばたき」
指定管理者 社会福祉法人アルカディア
TEL 0270-63-1860
FAX 0270-63-1861 見学受付担当 廣澤
※お問い合わせはお気軽にどうぞ！

アルカディア グループホーム事業所

H27年度が終わろうとしている今、振り返った上で来年度に向けた、グループホーム事業所としての目標や抱負を述べていこうと思います。また、次号からニュースレター委員が代わるので、来年度の委員に思いを託す意味でも、掲載していきます！

知識の統一化や勉強会強化



H27年度は世話人を始め、職員が研修に参加させてもらう機会が多く、ここでは「リカバリー」や「ピアスタッフ」等の専門用語がよく出てきていました。その都度、世話人から「難しい言葉で何となくわからない」と意見が挙がっている状況です。現状不定期開催で、職員間勉強会を開催していますが、まだまだ用語説明や理論解説など行えていません。そもそも有意義な勉強会が行えているか…とも考えました。以上のことを職員で話し合い来年度は、基本的な対応なども含め、【事例を挙げた検討会】や【より実践的な体験をしながら(ロールプレイ)の勉強会】を取り入れ、開催していきます！他にも、【外部講師を呼び専門的立場からの解説】も行えたらと考えています！

空き部屋問題

私がこのニュースレター委員を担当し、初めて書いた記事が「H26年度を振り返って」というものでした。その中で、グループホームの空き部屋について話し、改善として【各病院・行政職員へ空き状況を伝え、見学者を募る】【研修等で空き部屋を告知】【各グループホーム別のパンフレットを作り紹介をする】などを行いましたが、結果入居者満員とはなりません。この状況を打破するには…と、日常的に職員は悩みが尽きません。現状として、PR活動の強化(このニュースレターも活用させていただきます)の他、今まであまり関わりがなかった病院やクリニックの方々と、パイプ作りをしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします！

レクリエーションの充実化



以前ニュースレターで紹介したように、私たちのグループホームでは様々なレクを行っております！各グループホームで行う食事会やふらっと合同で行う「パークゴルフ」などの運動レク、行事では「流しそうめんレク」や「工場見学レク」などを実施しています。ですが、いまだに利用者の方から「楽しいことが無くて困っている」などの意見が出てきているのが、現実です。皆さんの意見を取り入れて、レクを開催するように努めていた今年度ですが、来年度は【レクリエーションの種類強化やアイディアの追求】【行うことを決めつけず、挑戦する気持ち】などを課題にし、皆さんの生活の楽しみの一つを提供出来ればと考えております！

住所：太田市鶴生田町733-123

Tel/Fax : 0276-25-3500
見学やご質問はこちらにどうぞ！

お問い合わせ